

【鈍川】 木地

④6 国宝伊予国奈良原山経塚出土品



檜原山山頂を望む。



奈良原神社の石造宝塔（市指定文化財）

昭和9年8月26日、檜原山山頂の奈良原神社の境内で雨乞いをするため清掃していた際に、たくさん銅銭が見つかり、それを掘り出したところ、その下から経塚が発見された（経塚とは教法を後世に伝えるため仏教経典を地中に埋納したものをいう）。

2つの瓶があり大きな瓶の中には銅宝塔、小さな瓶の中には銅経筒が納められていた。その他、鏡・銅鈴・短刀・檜扇など数多く出土した。これらは、平安末期のすぐれた工芸品で、中でも銅宝塔は九輪の相輪を持ち、経筒には種子曼荼羅が彫られており、京都鞍馬寺出土品と双璧をなすといわれている。小さな瓶には、銅経筒とともに黒く腐食してしまった写経が残っていた。

銅宝塔は、昭和12年に国宝に指定され、昭和25年「文化財保護法」が制定後、昭和31年に再度国宝に指定された。現在、玉川近代美術館に他の副藏品と共に保管され、春と秋に約1カ月ずつ一般公開されている。

数多く出土した銅銭は、中国からの渡来銭で最も古いものが621年の铸造、新しいもので1433年があり、お賽銭として投げられていたと思われる。奈良原神社は長く信仰の対象であったのだろう。経塚の上に置かれていた石造宝塔は建徳2年（1371）に造立されている。

出土した銅宝塔。平安末期のすぐれた工芸品（国宝）



出土した銅宝塔。平安末期のすぐれた工芸品（国宝）



出土品を一時保管していた石蔵